

指導の実際

〔授業展開案1〕「意見文を書こう」 (検証授業... 3 / 8時)

書くこと

1 単元の指導の実際と手立ての検証 ()

見通しをもつ場面

〔具体的手立て〕
事前アンケート
導入の工夫
学習計画表

「学習計画表」
赤枠内に学習活動を示した。

新学習指導要領の指導事項に準拠し、説明的な文章の学習で身に付けさせたい知識・技能を中心に10項目に絞ったアンケートを作成し、実施した。

アンケートの項目から、生徒は今回の単元で身に付けるべき知識・技能をイメージすることができていた。

生徒作品を読み比べて説得力のある意見文の書き方のポイントを考えさせ、自分の書く意見文をイメージさせた。

一時間の授業の目標ではなく、単元を通じた言語活動のねらいを意識することで、生徒はこれからの単元学習の見通しをもつことができた。また、同じ中学生の作品を読むことで言語活動を身近に感じ、意欲を喚起することができた。

学習計画表で学習活動の流れを確認し、学習計画を理解させた。

単元を通して、どんな目標をもってどんな学習活動をいつするのかを理解できたことで、生徒の学習に対する不安感は和らいだようだった。具体的な活動の見通しを示すこともできた。また、意見文の書き方のポイントを計画表に記述させておくことで、常に確認しながら活動できていた。(左図青枠内に記述。)

身に付ける場面

〔具体的手立て〕
スモールステップによる学習活動
言語活動
教材等の工夫

「比べ読みワークシート」
比べ読みの視点は、以下 から を示した。
構成 意見・根拠
反論に対する意見 文体
自由設定(例: 接続詞)

情報を収集して意見文を書く活動を細分化し、スモールステップによる学習活動で行えるようにした。

段階を踏みながら、手順を理解して活動に取り組めたことで、国語が苦手な生徒も、活動に取り組みようとする意欲をもつことができた。

位置付けた言語活動

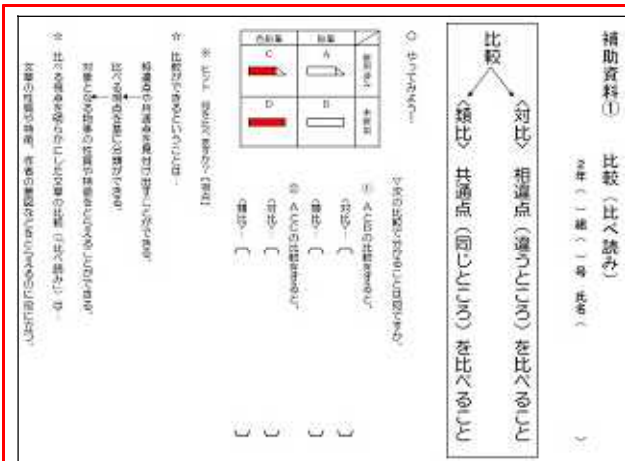
「B 書くこと」(2)イ

〔意見文(新聞投稿記事)を書く〕

「モアイは語る」と他のモデル作文の比べ読みを通して読み取った構成や表現の工夫を利用して意見文を書く。

位置付けた言語活動は、文章の構成や論理の展開に即して内容を読み取る力を身に付けさせるためには有効な活動だった。

生徒は二つの投稿記事モデルから、「分かりやすい構成で書く」「立場や意見を明確にする」「根拠を具体的に示す」「反論を予想しこれに対する意見を述べる」「出だしと結びを照応させる」という共通点を導きだした。説得力のある意見文を書くポイントを実感させるのに有効な手立てだった。



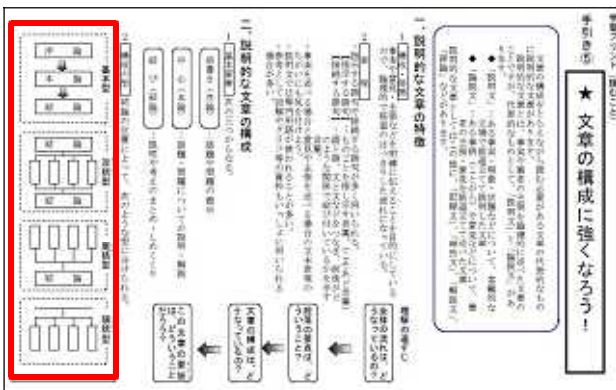
「補助資料(比べ読み)」

スモールステップによる学習活動に合わせて、ワークシートや生徒用手引き、補助資料を適宜用いた。

ワークシートは、学習の流れを目で見確認できるように工夫し、必要な情報を1枚にまとめたため、これまで言語活動に消極的だった生徒も、すぐに教師に聞いて解決しようとするのではなく、ワークシートを基に自分でまずやってみてから質問したり、自分なりに工夫したりする姿が多く見られるようになった。

生徒用手引きや補助資料を提示することで、生徒は常にそれを手元に置いて必要なときに利用することができた。書くことが苦手な生徒にとっては、モデル学習で一度やったことのある活動を、手引きや補助資料で確認しながら活動できるため、苦手意識をもたずに活動に臨むことができていた。

生徒は、自分の意見文の構成を考えるとき、説明的な文章の特徴と構成について解説している「学習の手引き」を、常に手元に置いて確認していた。



「学習の手引き」
赤枠内に構成の基本型を示した。



振り返る場面

〔具体的手立て〕
交流
学習計画表
事後アンケート

書き上げた意見文をお互いに読み合わせ、意見交流を基に相互評価に取り組みさせた。

お互いに読み合い、評価し合うことで、生徒は自分の意見文を振り返ることができた。さらに、構成や表現の工夫について意識し、自分なりの考えをもつことができるようになった生徒が増えてきた。



「学習計画表」
赤枠内に評価の観点を示した。

学習計画表に振り返りの欄を設け、活動の自己評価と反省を記入させた。

最初は漠然とした感想を書いていた生徒が、単元の最後には具体的に身に付けた知識・技能について書くことができるようになった。

事前アンケートと同じ項目で事後アンケートを実施した。

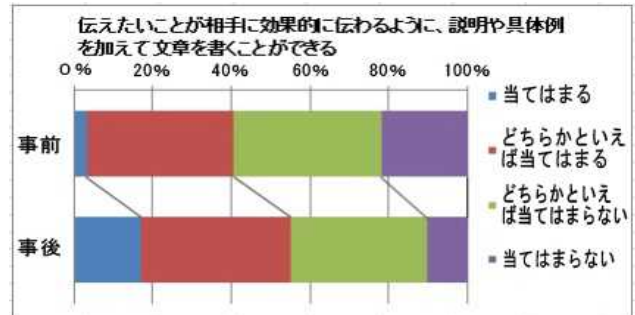
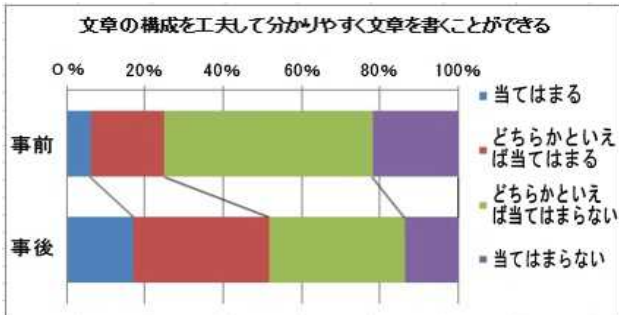
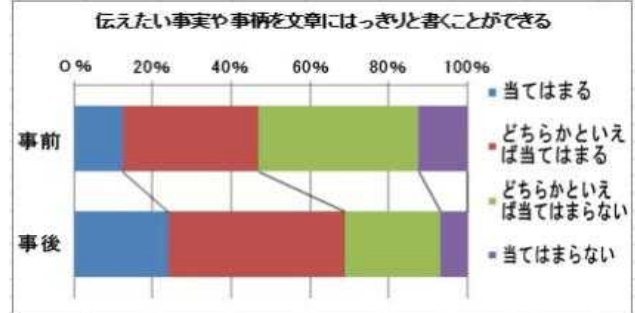
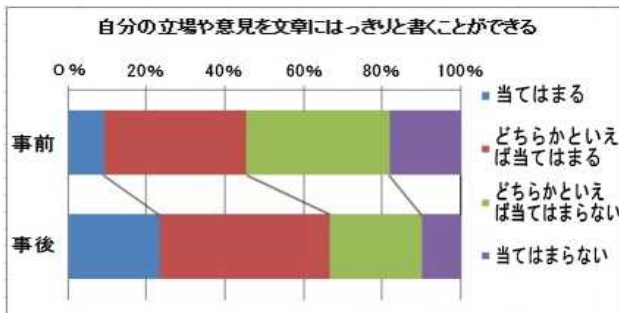
生徒は、今回の単元で身に付けるべき知識・技能について、活動と結び付けて確認することができた。また、事前に解答した内容と比較することで、身に付けた力を実感することもできていた。

2 生徒の変容

(1) アンケート結果より

「書くこと」について

- すべての項目で、事前よりも事後の方が「～することができる(分かる)」と答える生徒の割合が増えている。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりである。(上のグラフが事前、下のグラフが事後のアンケートの集計結果を示したもの。)

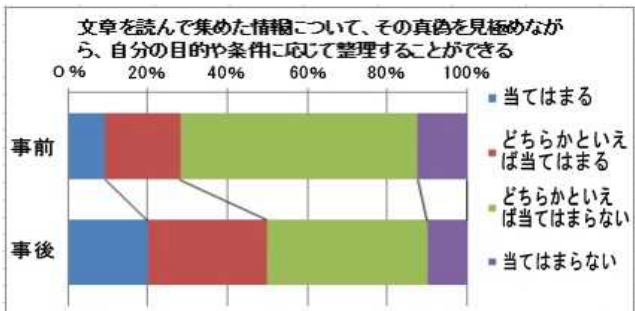
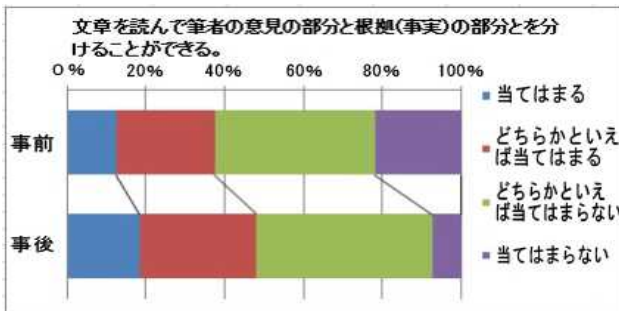
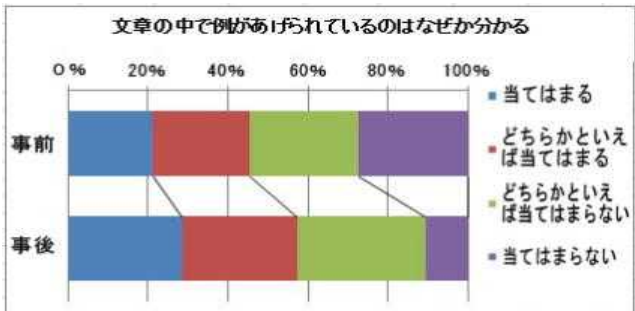
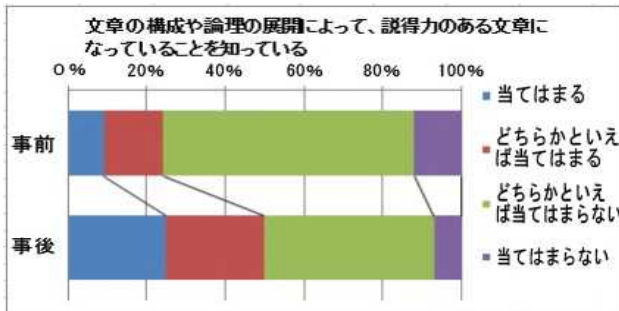


〔考察〕

- アンケート結果から、伝えたい事実や事柄を文章にはっきり書く力や文章の構成を工夫して分かりやすく書く力等、単元のねらいにつながる項目について、意識化できた生徒がかなりの割合で増えたことが分かる。本単元の学習において生徒が、伝えたいことを相手に明確に伝えるように書くためには、どのような知識・技能を使って、どう書けばよいのかを理解して学習を終えたことがうかがえる。

「読むこと」について

- 「読むこと」の指導事項についても、言語活動を通して身に付くことが期待される項目についてアンケートを実施した。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりである。



〔考察〕

- 言語活動を通して、本単元のねらいとかかわりの深い、文章の構成や表現の工夫といった「書くこと」とかかわりの深い知識・技能が意識化されたということが分かる。このことから、「読むこと」と「書くこと」を相互に作用させながら知識・技能の習得と活用を行う手立てとして

本単元に位置付けた言語活動は、有効であったといえる。

(2) 生徒の感想より(抜粋)

- ・伝えたいことなどを文章にはっきり書けるようになったと思った。
- ・私は書くことが苦手だったけど、この学習をして文章を書けるようになった。
- ・自分の考えを書けてよかった。
- ・前までは苦手だったけど、この学習をして書くことが前より簡単になった。
- ・自分の意見を文章で書くなんで今までできなかったけれど、この学習をして少しは自分の意見を文章で書く方法が分かったと思う。
- ・この授業で習ったことをこれから文章を書くときに生かしていきたい。

(3) 生徒作品より

分かりやすい構成で書いている。

結論

本論

序論

出だしと結びを照応させて書いている。

この単元に入る前までは、書くことに苦手意識をもっていた生徒だったが、この単元終了後の自評では、思ったよりも書くことができた達成感をもつことができていた。分かりやすい構成で、出だしと結びを照応させるなど工夫して書いている。内容も根拠を明らかに示して主張の重要性を説明したり、予想される反論に対する意見を書いたりして、自分の主張を伝える工夫がなされている。

3 指導者の考察

- ・最初は活動になかなか取り組めない生徒が多かったが、学習を進める中で、ワークシートや手引き等を活用することで自主的に取り組むことができたようになった生徒が増えてきた。
- ・生徒作品や新聞投稿を読むことでモデル学習を行ったが、学習活動をなぞらえることができて有効であった。スモールステップでの学習活動については苦手意識をもたせずに活動に取り組みさせることができ有効ではあるが、更に段階を細分化する必要を感じた。
- ・新聞投稿記事を書くということで、相手や目的に応じて書く力を身に付けさせたかったが、読み

手意識はまだ浅いという結果となった。相手や目的など条件に合っているか確認する作業のできるワークシートの必要性を感じた。

〔ワークシートの記入例〕

「意見文を書こう」ワークシート④
学年日： 年 月 日
氏名： 氏名

○ 意見文の構成を考えよう
▽1. 頭括弧 尾括弧(教材①) 双括弧(教材②) を使う
▽構成を覚えて内容を表にまとめておこう

構成	本 論				序 論	結 語
	反論に対する意見		根 拠			

キーセンテンス(要旨)

▽意見を書いておこう

意見



「意見文を書こう」補助資料⑤ ワークシート④の記入例
2年 () 組 () 号 氏名 ()

○ 意見文の構成を考えよう
▽1. 頭括弧 尾括弧(教材①) 双括弧(教材②) を使う
▽構成を覚えて内容を表にまとめておこう

構成	本 論				序 論	結 語
	反論に対する意見		根 拠			
	グリーンベルトの例	樺太の例	グリーンベルト運動	アイヌの歴史	植林	
	グリーンベルト運動も最初は4本の木の植林だった。人類が生き延びるためには森林の保全が必要。そのために協力して計画的に植林をすべきである。	樺太に、森を守るだけで人類が生き延びることができるといえば必ずしも断言はできない。しかし、樺太の砂丘を五十年かけてクロマツの林に変えたことで豊かな漁場が復活した事例を見ても、問題解決の足がかりになることは確かだ。	実際に、ワシントン・マーティン氏がグリーンベルト運動を提唱し、世界でも注目されている。	文明の崩壊は、森の消滅が原因だった。それは、アイヌの歴史を見れば明らかだ。ならば、森を守れば、文明の崩壊を防げるのではないか。	人類が生き延びる手段は、「木を植える」という単純なことから始められるのではないか。	

キーセンテンス(要旨)

▽意見を書いておこう

意見

人類が生き延びるためには森林の保全とそのために必要な環境の維持が必要である。私たち一人一人が連携して木を植えていこう。

ワークシートの記入例を補助資料として準備しておき、書き方が分からない生徒や自分で学習を進めることのできる生徒に適宜配布した。